

8 地域・保護者・諸機関との連携

各中学校区が、地域の教育財産を十分加味した上で教育計画を作成、実施、改善することが大切です。地域・保護者・諸機関との連携を促進し、地域の「歴史」や「伝統」を次世代につなげることにより、故郷に誇りを持つ子どもを育て、地域の活性化や地域コミュニティの醸成を行います。

(1) コミュニティ・スクールの活用

小・中学校における「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の連携を核として、学校教育と地域の教育力をつなげることにより、9年間を通じた「地域とともにある学校づくり」を進めます。中学校区をひとつの範囲として、地域人材や自然、施設等を活用した教育活動において、地域の方が学校での教育活動に参加したり、地域における児童生徒の様々な体験活動を支援したりすることにより、学校・保護者・地域が総がかりで子ども達の「生きる力」を育てます。

(2) 市民生活部、子ども部、健康福祉部、生涯学習部、 他諸機関との連携

市内の他諸機関との連携を促進することにより、豊かな学びを展開し、子ども達の「確かな学力」だけでなく、「社会性」「人間性」を育てていきます。

(3) 幼保小連携の推進

幼保小連携推進委員会にて策定する「我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム」に基づき、幼稚園、保育園、認定こども園での「アプローチカリキュラム」※及び小学校での「スタートカリキュラム」※を実施することにより、義務教育9年間の土台となる幼児教育・保育と学校教育の接続期の生活や学びを充実させ、小学校以降の生活と学習にスムーズにつなげます。

【用語解説】

「アプローチカリキュラム」

就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるよう工夫された5歳児のカリキュラム。
(国立教育政策研究所 幼児教育研究センターホームページ より)

「スタートカリキュラム」

入学当初に幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることをもとめられたカリキュラム。幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。

(「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き
H30.3 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著 より)